



東京工芸大学・風工学共同研究拠点・公開研究会のご案内

「日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究」

小規模ではあるが激甚被害をもたらす竜巻等に対する個人や行政レベルの対応，あるいは構造物の耐風性や設計上の考え方については，米国等に比較してわが国の状況は極めて不十分です。

竜巻の認識件数は増加傾向にあるが，顕著な影響は極めて限られた時空間的に現れるため，実態の把握が難しく，さらに竜巻発生の実態把握を的確に行うためには，竜巻の特徴を的確に表す分類評価を実施する必要があります。1971年に藤田哲也により提案されたフジタスケールは，世界各地で使用されてきましたが，被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘されており，米国では2001年頃から従来のフジタスケールに対する見直しが始まり，現在は改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が用いられています。このEFスケールは，米国での建築物や工作物，自然植生の空気力や耐力，強度を元に作成されており，これを直接日本の竜巻被害評価に適用することはできません。日本の状況を勘案した評価手法の開発が求められています。

これまで，日本における竜巻の強度分類法として，国内の被害指標(Damage Indicator, DI)として適切なものを抽出し，それらの被害状況程度(Degree of Damage, DOD)の分類と対応する作用風速(または等価風速)の適切な評価方法を検討してきました。そして，2015年12月，気象庁では，それを整理して「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」を提案するに至りました。本研究会では，検討結果をまとめ，ガイドラインの背景を整理して情報交換を行い，日本版改良フジタスケールの理解と運用に寄与することを目的といたします。奮ってご参加いただきたく，ご案内申し上げます。

奥田 泰雄（国土技術政策総合研究所）

開催日時：2016年2月27日（土）13：00～17：00

開催場所：東京工芸大学中野キャンパス 芸術情報館3階大会議室

参加申込：当日会場にて受付いたします。その他，お問い合わせは，東京工芸大学 風工学研究拠点 事務局 TEL：046-242-9658 までお願いいたします。

プログラム（予定）

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 13：00～趣旨説明 | 東京工芸大学名誉教授，田村 幸雄 |
| 13：20～日本版 EF スケールの全体概要 | 気象庁，田中 恵信 |
| 14：00～建築物の DI, DOD の紹介と風速の評価方法 | 国土技術政策総合研究所，奥田 泰雄 |
| | 建築研究所 喜々津 仁密 |
| 15：00～工作物他，交通標識や看板，車両や路盤，樹木関係等 | 九州大学，前田 潤滋 |
| 工作物 | 東京工芸大学，松井正宏・岡田 玲 |
| 交通標識，車両 | 東京工芸大学，吉田 昭仁 |
| 看板 | 風工学研究所，勝村 章 |
| 路盤 | 徳島大学，野田 稔 |
| 樹木 | 森林総合研究所，鈴木 覚 |
| 16：00～気象分野，気象学的な竜巻研究の動向 | 防衛大学校，小林 文明 |
| 16：30～ディスカッション | |
| 17：00閉会 | |